

山椒魚之夢

実は、これは2004年5月5日の明け方に見た夢である。長女が居間で仕事をしていたので、眠られずに、2階の布団に寝に行った。

今朝、素晴らしい予兆夢を見た。恐らく奥多摩の溪流をまだ幼かった長女と歩いていたのだろう。蛇のように細長い生き物が溪流の縁に頭を心持水の上に挙げて、尻尾をくねらせていた。蛇かと思い一瞬驚き、たじろいだが、水の中を覗き込むと肢が4つあり、指先の別れているも見えた。よくよく見るとこれはトウキョウサンショウオに違いない。娘を呼び、「見て、見てよ」と興奮して叫んだような気がする。

さらに溪流に入り岩の間を覗き込むと、ビニール袋に包まれたもう1匹が岩の間に挟まれていた。岩をどけてビニール袋を抜き出して見ると小型の山椒魚が手足を伸ばして包まれていた。何かの説明を記載して帯状のラベルが貼ってあったようだ。このラベルには平成13年某日とあった。急いでビニール袋を引きちぎり、中に入っていた山椒魚を溪流に解き放った。この生き物は激しい流れの中にのまれ、どこかに消えたと思えたが、しばらくして再生の喜び一杯に裂けたかと思われるほどの大きな口をあけて水面に跳びだしてきた。動きの鈍い山椒魚が3年近くもビニール袋に包まれ仮死状態にあったのに、どれほどの飲み込みであったのだろうか、前身で再生を表したのであろう。初めに見つけた大きな方が寄り添って、今度はゆっくり、のそりと岩間を一緒に歩いて溪流の中に消えた。

事情は今のところ定かではないが、思うに、大きい方は雄、ビニール袋に包まれた方は雌であったのだろう。不運に見舞われた伴侶を3年余もともに食せず、見守りつづけていたのであろうか。今日、偶然通りかかった人間、すなわち私たちの助けを得て、2匹はまた寄り添って川の中を歩くことができるようになった。素晴らしい生命力と夫婦愛に驚嘆した。これこそ吉祥の夢と思って、飛び起き、忘れないうちにここに概要を書きとめたのである。